



湖月抄

竹かわ



竹河

白宮の并の二

細巻名以奇并詞号之 詞 竹河とあるはよむ

しそを和程あり 奇竹河のくくらあり一ありはぬ

くさふれをこはちりきや 此和と首あり 細横乃并之

又未し望乃びと。 董十四とありと書く次の年正月

より七月まで書して又次の年の事あり又年以

わりくとありて年し、くつらとありとあり 唯同致

董の鼻進并年紀所説は巻よりありと四位侍後十四

ふらんとありありあり十四の年二月は伯後又狂せらる

し白文巻よりありとありとあり又を未し中紀をにありあり

事しとありとあり中紀をよかりとありとありとありとあり

とありとありとありの年乃秋の事とありとありとありとあり

最三十九



宮巻は十四日より十九日までの状宰相中納言は徳をもつて  
の事あり是をとりていつく言えども一は横の并也。然れを白  
文をよハ中納言の事あり。然れ中納言は徳をもつて一りた  
又思ふ并との事一は思は横をもつて一併如く一三日  
三日而詮當流乃思ひ并の事よ年記乃義あり  
人々考之依為<sup>テタルニ</sup>列傳也。徳抄乃一併徳をもつて一  
世とけつるべし

これハ源氏の事あり  
細は發揚世式あり作  
又世にその人なり  
事の傍よりけり源  
氏の事ありあり  
といふはありあり  
とつておとつて  
これハ源氏の事あり  
とつておとつて  
細は發揚世式あり作  
又世にその人なり  
事の傍よりけり源  
氏の事ありあり  
といふはありあり  
とつておとつて

これハ源氏の事あり  
細は發揚世式あり作  
又世にその人なり  
事の傍よりけり源  
氏の事ありあり  
といふはありあり  
とつておとつて  
これハ源氏の事あり  
とつておとつて  
細は發揚世式あり作  
又世にその人なり  
事の傍よりけり源  
氏の事ありあり  
といふはありあり  
とつておとつて



かたは後のより見えぬ  
はたきの末は精はより  
後のよりちるべし  
ちりくさる

中々のそりし 孟 難  
のそりとまづ入みし  
一帯

中々のそりし 細  
あぶき糸とそりし  
あぶき糸とそりし

細上陽人の初は己被揚  
妃遙側目 良氏集 上人

人のそりし 細  
三むくぐくと梅里  
とれまひー内遺恨

細中位をさうり 細  
孟 冷の内年 細  
思ふは 細  
ア海

うらやむく 孟  
あつ 孟  
なれ 孟  
い

らるり 孟  
うより 孟  
らあ 孟  
とどの 孟

わ 孟  
ひ 孟  
い 孟  
け 孟

い 孟  
い 孟  
い 孟  
い 孟

い 孟  
い 孟  
い 孟  
い 孟

い 孟  
い 孟  
い 孟  
い 孟

い 孟  
い 孟  
い 孟  
い 孟

い 孟  
い 孟  
い 孟  
い 孟

い 孟  
い 孟  
い 孟  
い 孟

ひよのときも 三よのせれ  
と下ろく 豊東のしりぬめ  
のまはよそくしりぬめ  
よまきれしりぬめ

人々もよきしりぬめ  
細あしりぬめ  
らてふまのた文もまきれ  
と面対のしりぬめ  
いとよつけくも  
細夕秀の息彦人のかね  
んかろくしりぬめ  
ひかりしりぬめ

しりぬめ 細 後官  
かろくしりぬめ  
らてふまのた文もまきれ  
と面対のしりぬめ  
いとよつけくも  
細夕秀の息彦人のかね  
んかろくしりぬめ  
ひかりしりぬめ

さききくしりぬめ  
かろくしりぬめ  
らてふまのた文もまきれ  
と面対のしりぬめ  
いとよつけくも  
細夕秀の息彦人のかね  
んかろくしりぬめ  
ひかりしりぬめ

さききくしりぬめ  
かろくしりぬめ  
らてふまのた文もまきれ  
と面対のしりぬめ  
いとよつけくも  
細夕秀の息彦人のかね  
んかろくしりぬめ  
ひかりしりぬめ



その口へていふよしと  
盡かろのくはほの  
形よハ雅と云んぞダ  
昔のむらじもくく  
て新也もくはすおれ  
とて四位位位と兄才の  
列よと後  
の君もさるる 孟  
むらぐの兄才の列よと  
多ふはよ業也もさる  
くもさる

ゆゑ〜ゆゑのゆゑ  
花紅梅の工良はゆゑ  
り

さんていからよめであつりづんのふれ  
色がよこそめをさるるのまゆ  
果かろ〜物〜さるる  
ま〜う物〜さるる  
おき  
とちひで〜さるる

うの〜め〜ゆ〜さるる  
タ  
〜さるる  
ゆ〜さるる  
とちひの〜さるる

ま〜れ〜ゆ〜さるる  
孟  
ゆ〜さるる  
ゆ〜さるる  
ゆ〜さるる

ゆゑ〜ゆゑのゆゑ  
ゆゑ〜ゆゑのゆゑ  
ゆゑ〜ゆゑのゆゑ  
ゆゑ〜ゆゑのゆゑ  
ゆゑ〜ゆゑのゆゑ

ゆゑ〜ゆゑのゆゑ  
ゆゑ〜ゆゑのゆゑ  
ゆゑ〜ゆゑのゆゑ  
ゆゑ〜ゆゑのゆゑ  
ゆゑ〜ゆゑのゆゑ  
ゆゑ〜ゆゑのゆゑ  
ゆゑ〜ゆゑのゆゑ  
ゆゑ〜ゆゑのゆゑ













この君も 孟の如く柳葉  
よ何なるもさきさき  
行はばわづらひのさき  
の物たるがごとく

さうらふつとてしやう  
人も 孟 幸へりし人  
もなるとはたしむる  
てたさかへりし人  
われはむづからさうらふ

とらうらり

さうらふつとてしやう  
孟 幸へりし人  
もなるとはたしむる  
てたさかへりし人  
われはむづからさうらふ  
細 河海はか  
何ぞと問ひよらる  
えげ敷とてあつた  
よらうや作ほのさう  
よ返す

あふさかたぞ 細  
そつとさうらひも  
しらへるさうらひ

さうらふつとてしやう  
孟の如く柳葉とて  
行はばわづらひのさき  
の物たるがごとく  
細 河海はか  
何ぞと問ひよらる  
えげ敷とてあつた  
よらうや作ほのさう  
よ返す  
さうらふつとてしやう  
孟 幸へりし人  
もなるとはたしむる  
てたさかへりし人  
われはむづからさうらふ  
細 河海はか  
何ぞと問ひよらる  
えげ敷とてあつた  
よらうや作ほのさう  
よ返す

さうらふつとてしやう  
孟の如く柳葉とて  
行はばわづらひのさき  
の物たるがごとく  
細 河海はか  
何ぞと問ひよらる  
えげ敷とてあつた  
よらうや作ほのさう  
よ返す  
さうらふつとてしやう  
孟 幸へりし人  
もなるとはたしむる  
てたさかへりし人  
われはむづからさうらふ  
細 河海はか  
何ぞと問ひよらる  
えげ敷とてあつた  
よらうや作ほのさう  
よ返す







右後の志んぞ 細見廻  
しを回 三見廻し鞠を  
ふもわり 若竹松 師娘  
悉の背へ 髪巻く 批書  
とまるとりふじや

まつ人のつそりし  
師たぬ中ねの宿さず

アけの志んぞのつそりし  
中ねのつそりしは後よ  
昨夜の志んぞのつそりし  
本宿のつそりし 細見廻  
あつてはつそりしよと  
つそりして細見廻り  
つそりして 中ねのつそりし  
弁友・政府よと毎日  
万持のつそりしはつそりし  
つそりし

ひとちうさゆや 細見廻  
つそりしはつそりし  
つそりしはつそりし  
つそりしはつそりし

よく柳のつそりしはつそりし  
つそりしはつそりし  
つそりしはつそりし

つそりしはつそりし  
つそりしはつそりし

つそりしはつそりし  
つそりしはつそりし

つそりしはつそりし  
つそりしはつそりし

つそりしはつそりし  
つそりしはつそりし

つそりしはつそりし  
つそりしはつそりし

つそりしはつそりし  
つそりしはつそりし

つそりしはつそりし  
つそりしはつそりし

つそりしはつそりし  
つそりしはつそりし

つそりしはつそりし  
つそりしはつそりし

つそりしはつそりし  
つそりしはつそりし

つそりしはつそりし  
つそりしはつそりし

つそりしはつそりし  
つそりしはつそりし

つそりしはつそりし  
つそりしはつそりし

つそりしはつそりし  
つそりしはつそりし

つそりしはつそりし  
つそりしはつそりし



とよよまてうひてこそ  
 仲木のあふ人花のあやう  
 つつとこもさもめいと  
 ゆつとこも真もさあお  
 られとく  
 つつとめより  
 細夕方の中一乃女<sup>かよ</sup>のあは  
 よまよりうきとく仲か  
 うつこのこもとく

うらなよと世人<sup>こ</sup>にゆるすめれげよ  
 いかひかきよきも脱<sup>か</sup>れん<sup>か</sup>  
 こもいしめいしにありさぬいしよ  
 ぬいひあひかりしきさめれごりち  
 らぬららどきつや琴<sup>か</sup>のこも花<sup>か</sup>あ  
 のみとこもあよむとよもささいんこ  
 じん<sup>か</sup>のこもよとゆつうのさわ<sup>か</sup>ま<sup>か</sup>  
 いはきよびま<sup>か</sup>いづつ<sup>か</sup>わん<sup>か</sup>め<sup>か</sup>らん  
 ひささん<sup>か</sup>の<sup>か</sup>いし<sup>か</sup>ん<sup>か</sup>の<sup>か</sup>あ<sup>か</sup>れ<sup>か</sup>  
 ての<sup>か</sup>お<sup>か</sup>し<sup>か</sup>め<sup>か</sup>れ<sup>か</sup>さ<sup>か</sup>あ<sup>か</sup>く<sup>か</sup>あ<sup>か</sup>  
 しま<sup>か</sup>らん<sup>か</sup>い<sup>か</sup>ひ<sup>か</sup>い<sup>か</sup>く<sup>か</sup>ん<sup>か</sup>つ<sup>か</sup>れ<sup>か</sup>  
 し<sup>か</sup>り<sup>か</sup>あ<sup>か</sup>ん<sup>か</sup>と<sup>か</sup>つ<sup>か</sup>ま<sup>か</sup>い<sup>か</sup>れ<sup>か</sup>  
 んせまうはひにさ家の酒さくせけん

倭とくけ物 細花玉刺  
 らしとひたり海つあ  
 げ物よとら事とあり  
 花末朝よ玉刺ととふ  
 人鍾<sup>しん</sup>山よとて葉<sup>か</sup>秀<sup>しゆ</sup>  
 首と<sup>し</sup>と<sup>し</sup>と<sup>し</sup>梅<sup>め</sup>詩<sup>し</sup>  
 く不能作詩王<sup>わ</sup>荆<sup>しん</sup>公<sup>こう</sup>代<sup>だい</sup>  
 て作ま<sup>し</sup>り<sup>し</sup>り<sup>し</sup>り<sup>し</sup>り<sup>し</sup>り<sup>し</sup>り<sup>し</sup>  
 のま<sup>し</sup>ら<sup>し</sup>れ<sup>し</sup>ど<sup>し</sup>花<sup>は</sup>と<sup>と</sup>け<sup>け</sup>  
 物<sup>は</sup>よ<sup>よ</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>  
 しゃ

今ハくみわつさゆよりそら  
 多てあしとさどの終りぞとれ物<sup>か</sup>あ<sup>か</sup>  
 中<sup>ちゆう</sup>お<sup>お</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>後<sup>ご</sup>志<sup>し</sup>進<sup>しん</sup>い<sup>い</sup>ら<sup>ら</sup>こ  
 まるこく<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>終<sup>しゆう</sup>青<sup>せい</sup>よりあ<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>く<sup>く</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>  
 らとけ物<sup>ぶつ</sup>あ<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>ん<sup>ん</sup>よ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>に<sup>に</sup>い<sup>い</sup>ら<sup>ら</sup>わ<sup>わ</sup>ら  
 終<sup>しゆう</sup>りん<sup>りん</sup>言<sup>ごん</sup>よ<sup>よ</sup>花<sup>は</sup>と<sup>と</sup>に<sup>に</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>  
 し<sup>し</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>さ<sup>さ</sup>  
 て<sup>て</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>  
 者<sup>しや</sup>我<sup>が</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>し<sup>し</sup>り<sup>り</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>も<sup>も</sup>今<sup>いま</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
 ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>い<sup>い</sup>し<sup>し</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>ん<sup>ん</sup>じ<sup>じ</sup>あ<sup>あ</sup>や<sup>や</sup>かり<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>を<sup>を</sup>別<sup>べつ</sup>の<sup>の</sup>  
 加<sup>か</sup>ね<sup>ね</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>中<sup>ちゆう</sup>終<sup>しゆう</sup>奇<sup>き</sup>え<sup>え</sup>の<sup>の</sup>け<sup>け</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>か<sup>か</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>  
 誰<sup>たれ</sup>し<sup>し</sup>ら<sup>ら</sup>つ<sup>つ</sup>れて<sup>て</sup>出<sup>で</sup>終<sup>しゆう</sup>よ<sup>よ</sup>く<sup>く</sup>れ<sup>れ</sup>ば<sup>ば</sup>え<sup>え</sup>ら<sup>ら</sup>こ<sup>こ</sup>ん<sup>ん</sup>じ<sup>じ</sup>  
 今<sup>いま</sup>あ<sup>あ</sup>よ<sup>よ</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>な<sup>な</sup>れ<sup>れ</sup>あ<sup>あ</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>よ<sup>よ</sup>よ<sup>よ</sup>よ<sup>よ</sup>

仁孝の御成りなれまらん  
仲伝の御成りなれまらん  
んとありまらん

のやめをそれと見えん  
三伴君の衣裳あはれ  
それと見えん

まよらうと人の  
何様か  
それと見えん  
後の  
ハ様か

一に  
く  
と  
あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん  
あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

あ  
い  
さ  
あ  
よ  
ら  
の  
ま  
ん

こころの風よらねし  
三風よらねし  
花の影を遺恨よらねし  
こころの風よらねし  
三風よらねし  
花の影を遺恨よらねし  
こころの風よらねし  
三風よらねし  
花の影を遺恨よらねし

孟 須芳の娘君  
こころの風よらねし  
花の影を遺恨よらねし  
こころの風よらねし  
三風よらねし  
花の影を遺恨よらねし  
こころの風よらねし  
三風よらねし  
花の影を遺恨よらねし

こころの風よらねし  
三風よらねし  
花の影を遺恨よらねし  
こころの風よらねし  
三風よらねし  
花の影を遺恨よらねし  
こころの風よらねし  
三風よらねし  
花の影を遺恨よらねし

勝芳の娘女  
こころの風よらねし  
花の影を遺恨よらねし  
こころの風よらねし  
三風よらねし  
花の影を遺恨よらねし  
こころの風よらねし  
三風よらねし  
花の影を遺恨よらねし



例は後のもよしと  
駐 彦人が将をくぐりな  
のゆはの曹目よりなり  
ま

いひつらり川 河 奪取  
益 彦人の文と彦人の文  
まよと彦人がおのま

つまびらして 細くつらり  
彦人をそのいさよまのす  
まよもくつらりかよま  
の月殺のまよくつらり  
まよと彦人がおのま

つまびらして 報名月日  
まよと彦人がおのま  
彦人のまよくつらり  
まよと彦人がおのま

例はつらり中納のゆ  
駐 彦人の文と彦人の文  
か将のまよくつらり  
彦人のまよくつらり

このまよくつらり  
駐 彦人の文と彦人の文  
か将のまよくつらり  
彦人のまよくつらり

このまよくつらり  
細中納のまよくつらり  
のまよくつらり  
まよと彦人がおのま

彦くもわつらり海のまよくつらりして後

まよくつらり海のまよくつらりして後

のまよくつらり海のまよくつらりして後

まよくつらり海のまよくつらりして後

のまよくつらり海のまよくつらりして後

まよくつらり海のまよくつらりして後

のまよくつらり海のまよくつらりして後

まよくつらり海のまよくつらりして後

のまよくつらり海のまよくつらりして後

まよくつらり海のまよくつらりして後

のまよくつらり海のまよくつらりして後

まよくつらり海のまよくつらりして後

のまよくつらり海のまよくつらりして後

まよくつらり海のまよくつらりして後

のまよくつらり海のまよくつらりして後

まよくつらり海のまよくつらりして後

のまよくつらり海のまよくつらりして後

まよくつらり海のまよくつらりして後

のまよくつらり海のまよくつらりして後

まよくつらり海のまよくつらりして後

のまよくつらり海のまよくつらりして後

まよくつらり海のまよくつらりして後

のまよくつらり海のまよくつらりして後

まよくつらり海のまよくつらりして後

のまよくつらり海のまよくつらりして後

まよくつらり海のまよくつらりして後

彦くもわつらり

まよくつらり

のまよくつらり

まよくつらり

のまよくつらり

まよくつらり

のまよくつらり

まよくつらり

のまよくつらり

まよくつらり

のまよくつらり

まよくつらり

のまよくつらり

まよくつらり

のまよくつらり

まよくつらり

のまよくつらり

まよくつらり

のまよくつらり

まよくつらり

のまよくつらり

まよくつらり

のまよくつらり

まよくつらり

のまよくつらり

まよくつらり

細引末劫  
しんがくはあまのこ  
しんがくはあまのこ  
しんがくはあまのこ  
しんがくはあまのこ  
しんがくはあまのこ

細中將の  
けふの夕ぐれ  
けふの夕ぐれ  
けふの夕ぐれ  
けふの夕ぐれ  
けふの夕ぐれ

細中將の  
けふの夕ぐれ  
けふの夕ぐれ  
けふの夕ぐれ  
けふの夕ぐれ  
けふの夕ぐれ

非番人かおの娘をきこる  
きこるの娘をきこる

きこるの娘をきこる  
きこるの娘をきこる

きこるの娘をきこる  
きこるの娘をきこる

きこるの娘をきこる  
きこるの娘をきこる

きこるの娘をきこる  
きこるの娘をきこる

きこるの娘をきこる  
きこるの娘をきこる

きこるの娘をきこる  
きこるの娘をきこる

きこるの娘をきこる  
きこるの娘をきこる

きこるの娘をきこる  
きこるの娘をきこる

きこるの娘をきこる  
きこるの娘をきこる

きこるの娘をきこる  
きこるの娘をきこる

きこるの娘をきこる  
きこるの娘をきこる

きこるの娘をきこる  
きこるの娘をきこる







おのちハ 細女若人 枝柱  
のちハ 別腹の兄才なり  
P 毎々つづつても 枝柱  
あり

いづれはつづけても  
師がふつづつと紅梅のせむ  
の兄才に渡りまうり 枝柱  
も 枝柱も兄才に  
友中納まうり 細女若  
の息枝柱 同腹の兄才也  
志りつづつと 細女若人  
同兄才もれど 枝柱

細女若人とて

いとわづらひしつづつと  
師やぞと入のわづらひ 姉妹  
くく一和のわづらひも  
おのちとあひあひも  
あうり

しつづつとていかに さうの 枝柱ももれよ

とあり 細女若人のあひ 枝柱ももれよ

よつとていかに 師のあひ 枝柱ももれよ

わづらひ 枝柱のあひ 枝柱ももれよ

とせま 師のあひ 枝柱ももれよ

つと 細女若人のあひ 枝柱ももれよ

あ 枝柱のあひ 枝柱ももれよ

い 細女若人のあひ 枝柱ももれよ

なれ 枝柱のあひ 枝柱ももれよ

と 細女若人のあひ 枝柱ももれよ

と 細女若人のあひ 枝柱ももれよ

弁 細女若人のあひ 枝柱ももれよ

と 細女若人のあひ 枝柱ももれよ

わ 細女若人のあひ 枝柱ももれよ

え 細女若人のあひ 枝柱ももれよ

命 細女若人のあひ 枝柱ももれよ

と 細女若人のあひ 枝柱ももれよ

ら 細女若人のあひ 枝柱ももれよ

り 細女若人のあひ 枝柱ももれよ

と 細女若人のあひ 枝柱ももれよ

お 細女若人のあひ 枝柱ももれよ

り 細女若人のあひ 枝柱ももれよ

い 細女若人のあひ 枝柱ももれよ

か 細女若人のあひ 枝柱ももれよ

中にお方の 細い人かお  
の父母相見していろいろ  
ご人としていろいろと  
さよとしていろいろと  
さよとしていろいろと  
さよとしていろいろと  
さよとしていろいろと  
さよとしていろいろと

わくわくして 細い人かお  
分り今この限りと  
さよとしていろいろと  
さよとしていろいろと  
さよとしていろいろと  
さよとしていろいろと  
さよとしていろいろと

ゆー... 細い人かお  
さよとしていろいろと  
さよとしていろいろと  
さよとしていろいろと  
さよとしていろいろと  
さよとしていろいろと  
さよとしていろいろと

かりたり... 細い人かお

ひやりたり... 細い人かお

ひかりたり... 細い人かお

ひかりたり... 細い人かお

ひかりたり... 細い人かお

ひかりたり... 細い人かお

ひかりたり... 細い人かお

ひかりたり... 細い人かお

ひかりたり... 細い人かお

ひかりたり... 細い人かお

ひかりたり... 細い人かお

ひかりたり... 細い人かお

ゆー... 細い人かお  
さよとしていろいろと  
さよとしていろいろと  
さよとしていろいろと  
さよとしていろいろと  
さよとしていろいろと  
さよとしていろいろと











若人か栞の中よりとる  
師もへふりな十百あつり  
とつらそあつる年の  
月十日の中と十五六乃  
くらそそのゆへに秋  
よひあそひの事あり  
秋秋と伝れぬむと中  
くすべーの白交をさや  
十月の秋ふと中將は  
栞にたてあ  
二初初あ人  
緑法手は栞者  
奇字の年人  
子孫合衣笠栞樂人  
八者一領

ひびきをまぐらあそび  
はあそびの  
中よ栞の  
そ中よとどねつらあそび  
四位の栞太の年歌るり  
扱系人のうまの  
の月乃ふれやうらり  
つとく冷泉院よまつら  
とふれなまはれつら  
あそびつらひとつれ  
後任栞のあの人  
大後りの大後

ひびきもまぐら  
孟忘却して平の舞  
是の端もそしぬ

らあそび  
とる  
つとく  
とらあそび  
けん  
さあそび  
らあそび  
つとく  
とらあそび  
けん  
さあそび  
らあそび

月八夜少くもさうさうは

愚云 女使にむねのいふえ  
あつらんといふは女使の  
の女使のいふむねのいふえ  
あつらんといふは女使の  
の女使のいふむねのいふえ  
あつらんといふは女使の  
の女使のいふむねのいふえ

酒肴は飯驛より水驛へ  
酒肴は飯驛より水驛へ  
酒肴は飯驛より水驛へ  
酒肴は飯驛より水驛へ  
酒肴は飯驛より水驛へ

音巻草子 乗 踏奇  
我家は殿方さま  
ゆきもは曲ま

様のおつらさう 細  
式平ゆりとわりのおつらさ  
男はれた極男よもつら  
つらさうといふむねのいふ  
中あつらんといふむねのい  
つらさうといふむねのい  
つらさうといふむねのい  
つらさうといふむねのい

てはらんぞ月八夜少くもさうさうは

あつらんといふは女使の  
の女使のいふむねのいふえ  
あつらんといふは女使の  
の女使のいふむねのいふえ  
あつらんといふは女使の  
の女使のいふむねのいふえ

源作は後よりなれはなれ  
あつらんといふは女使の  
の女使のいふむねのいふえ  
あつらんといふは女使の  
の女使のいふむねのいふえ

冷泉の  
ゆららららららららら  
のゆ方はららららららら  
ゆらららららららららら  
ゆらららららららららら

ゆららららららららら  
ゆらららららららららら  
ゆらららららららららら  
ゆらららららららららら  
ゆらららららららららら





とくぶせき方の見方の女  
 のかつと一よめゆめゆめ  
 ままそのの跡よまのりお  
 ちせきとまのねじゆめ  
 こゝろのねんぢも、  
 こゝろんやほおのゆめ、  
 幾一人くは皆別まを  
 こゝせし皆ゆめ、  
 の中おのまじれ 細女直こ  
 けりくせくし事  
 中ねれはまれよ中ね  
 のすねりまことゆめ  
 とおひつはあけしり  
 させびよ見ゆるは  
 こゝろく 世中を  
 くのゆめとまじり  
 けりやまはまんと  
 せん

孟山平したく中の梅香と  
 わりま長徳よわくろく

おちのりさぬ 細ひ下中  
 梅香のゆめと彼とまを  
 とせまのゆめとて護任  
 ありあり  
 肉竹のゆめとゆめづら  
 孟山の肉竹のゆめとゆめ  
 ゆめゆめつらまのゆめ  
 かちやけつらまのゆめ  
 花巻く 細竹のゆめと  
 幾一人くせられまを  
 らとせまゆめとゆめづら  
 れとまのゆめとゆめづら  
 ゆめづらとゆめづら  
 せとゆめとて護任  
 ありあり  
 在中のゆめとゆめづら 細竹  
 孟山のゆめとゆめづら  
 のゆめとてゆめづら  
 孟山のゆめとゆめづら  
 らとまのゆめとてゆめ

こゝろのゆめとゆめづら  
 のゆめとゆめづら  
 ゆめはゆめづら  
 こゝろのゆめとゆめづら  
 中ねのゆめとゆめづら  
 のゆめとゆめづら  
 けりやまはまんと  
 こゝろのゆめとゆめづら  
 孟山平したく中の梅香と  
 わりま長徳よわくろく

ゆめとゆめづら  
 のゆめとゆめづら  
 ゆめはゆめづら  
 こゝろのゆめとゆめづら  
 中ねのゆめとゆめづら  
 のゆめとゆめづら  
 けりやまはまんと  
 こゝろのゆめとゆめづら  
 孟山平したく中の梅香と  
 わりま長徳よわくろく

ひうの例とて 三田例と勘て譲伊りあへぬ 親子相續の例 石打相續とて定り  
我父の職とてのみよゆつと例とて定りし 肉約巻よりさるるうう  
ひあゆ 細中娘君肉約巻より細中娘とて世のわれどるやうてて定りしとて  
きててあづるの辭退ともゆりし

物とてあゆめし 巴より約束とるやうに 細中娘のあゆめ

えいし 細中娘のあゆめ 三田中娘と定りし 肉約巻よりさるるうう

舟のあゆめ 細中娘のあゆめ 三田中娘と定りし 肉約巻よりさるるうう

よあゆ 細中娘のあゆめ 三田中娘と定りし 肉約巻よりさるるうう

むさ 細中娘のあゆめ 三田中娘と定りし 肉約巻よりさるるうう

う 細中娘のあゆめ 三田中娘と定りし 肉約巻よりさるるうう

あ 細中娘のあゆめ 三田中娘と定りし 肉約巻よりさるるうう

い 細中娘のあゆめ 三田中娘と定りし 肉約巻よりさるるうう

え 細中娘のあゆめ 三田中娘と定りし 肉約巻よりさるるうう

お 細中娘のあゆめ 三田中娘と定りし 肉約巻よりさるるうう

うゆいよあゆらるる  
三田やみ肉約巻の女君  
世のあゆらるるあゆめ  
かとのあゆらるるあゆめ

あゆめいよあゆらるる  
細中娘とていよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

を織よけらるるあゆめ  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる  
あゆめいよあゆらるる

三つと信く 飛鳥日  
 細院の御ふけ給へ  
 おまつりまゝなむとて  
 山皇女(あつ)つあゝぬ  
 はまらてうらとま  
 紙とひりりり  
 師おつりの心の内と  
 くまり給えむを姫君  
 うらとまを 飛鳥  
 人の意人 細院は  
 中の意は孫のわくそ  
 ひの時も心をせ給へ  
 とて

三つと信く 飛鳥日  
 細院の御ふけ給へ  
 おまつりまゝなむとて  
 山皇女(あつ)つあゝぬ  
 はまらてうらとま  
 紙とひりりり  
 師おつりの心の内と  
 くまり給えむを姫君  
 うらとまを 飛鳥  
 人の意人 細院は  
 中の意は孫のわくそ  
 ひの時も心をせ給へ  
 とて

三つと信く 飛鳥日  
 細院の御ふけ給へ  
 おまつりまゝなむとて  
 山皇女(あつ)つあゝぬ  
 はまらてうらとま  
 紙とひりりり  
 師おつりの心の内と  
 くまり給えむを姫君  
 うらとまを 飛鳥  
 人の意人 細院は  
 中の意は孫のわくそ  
 ひの時も心をせ給へ  
 とて

三つと信く 飛鳥日  
 細院の御ふけ給へ  
 おまつりまゝなむとて  
 山皇女(あつ)つあゝぬ  
 はまらてうらとま  
 紙とひりりり  
 師おつりの心の内と  
 くまり給えむを姫君  
 うらとまを 飛鳥  
 人の意人 細院は  
 中の意は孫のわくそ  
 ひの時も心をせ給へ  
 とて





服るはてしなくして

三と云はれしを奉れしは  
てのまはへはらうま  
かぐくしの歌くし行し  
いぬみかぐくしの宿おほよ  
ゆりて一念のふかひ  
まよりて執りてまよひ  
ききまはるは徹夜おの  
兄弟も恨むしをひ  
上の四つとよりして中將  
并ふどの子息は慈よの  
一とていへしはね橋一筋  
たり世よまはる人の男し  
女を引くくくせんくく  
とさよとのいへしはま  
てえとまはるあし  
あしとまはるの 細藤公の  
とんちやうしてお息はま  
ひひいへしなり

こころはつかうする  
にふはあはれしや  
おきつとていふ  
らそこのがわうよあわさして  
もくそ人よあわさりて  
いふらしてまづ人ののら  
まきりわびやうらとあ  
とあわさし人へのあわさ  
かりつとてあまきり  
ぬぞあまきりあわさ  
いへしとていふ  
の中あまきりあわさ  
わびとていふ

そとみせせしりし  
寧ろの中將 細白文のきり  
とんちやうしてお息はま  
ひひいへしなり

こころはつかうする  
にふはあはれしや  
おきつとていふ

こころはつかうする  
にふはあはれしや  
おきつとていふ  
らそこのがわうよあわさして  
もくそ人よあわさりて  
いふらしてまづ人ののら  
まきりわびやうらとあ  
とあわさし人へのあわさ  
かりつとてあまきり  
ぬぞあまきりあわさ  
いへしとていふ  
の中あまきりあわさ  
わびとていふ

大正 細氏族不承也  
 系圖は、三行河の左大居  
 とあり、三行河の舟  
 跡を去るを 細 非系  
 又、松山にけり、  
 のた乃こそ、  
 ありんとぞ、

一、多りて、  
 細 善人か、  
 一、げ中、  
 くもつ、  
 ひとめ、  
 別のも、  
 ひあ、  
 うのあ、  
 うさ、  
 ひよ、  
 當然の、  
 らぬ、  
 のま、  
 りよ、

大正 細言 細河海大御  
 の、九系、  
 ひり、  
 何買、  
 相と、  
 是執、  
 大正、  
 三、  
 細、  
 細、  
 細、  
 細、  
 細、  
 細、

一、多りて、  
 細 善人か、  
 一、げ中、  
 くもつ、  
 ひとめ、  
 別のも、  
 ひあ、  
 うのあ、  
 うさ、  
 ひよ、  
 當然の、  
 らぬ、  
 のま、  
 りよ、





何をゆくりや  
 舞のり 細田  
 三つあやうい  
 内入るれい  
 うことり 後  
 うや あ  
 とく あ  
 のひ あ  
 細田 あ  
 わ あ

おのの あ  
 ひかり あ  
 ぐり あ  
 年の あ  
 り あ  
 ん あ  
 や あ  
 せ あ  
 せ あ  
 し あ  
 せ あ  
 し あ  
 し あ

ちりり あ  
 喉 あ  
 入 あ  
 花 あ  
 せ あ  
 や あ  
 ち あ  
 の あ  
 ち あ  
 の あ

ちりり あ  
 の あ  
 ち あ  
 の あ  
 ち あ  
 の あ  
 ち あ  
 の あ  
 ち あ  
 の あ  
 ち あ  
 の あ  
 ち あ  
 の あ  
 ち あ  
 の あ

107E

こまごませつく 細末共  
 久々のことぞのう板  
 粒のまは細末をば  
 かつりくしのま  
 ちひしつたははば  
 まく物ゆもいそ  
 めごとりせのま  
 ぬゆはとむらうの  
 しまつ

のひらやぶるもど  
細末のまは  
 まよとゆとむら  
細末のまは  
 まよとゆとむら  
細末のまは  
 まよとゆとむら  
細末のまは  
 まよとゆとむら  
細末のまは  
 まよとゆとむら

おまはの息の  
 りのまは  
 りのまは  
 りのまは  
 りのまは  
 りのまは

ちりまらるもど  
細末のまは  
 りのまは  
細末のまは  
 りのまは  
細末のまは  
 りのまは  
細末のまは  
 りのまは  
細末のまは  
 りのまは  
細末のまは  
 りのまは



